

授業 科目	病理学Ⅰ	担当 教員	外部講師 小澤 幸泰* 近藤 泰三* 岩井 雅則* 市川 元司* 杉山 燈人*	単位数	1	時期	1年次
				時間数	30		5月～
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。							
目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。							
2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。							
3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員
1	病理学総論 1	病理学とは 細胞 循環障害				講義	小澤
2	病理学総論 2	炎症 感染 代謝障害				講義	
3	病理学総論 3	老化と死 先天異常				講義	
4	病理学総論 4	腫瘍 心臓・血管・血液の疾患				講義	近藤
5	病理学総論 5	呼吸器・消化器の疾患				講義	
6	病理学総論 6	内分泌・生殖器系・乳腺の疾患				講義	岩井
7	病理学総論 7	脳・神経の疾患 耳鼻科・皮膚科の疾患				講義	
8	呼吸器内科疾患 1	呼吸器の構造と機能 症状とその病態生理 1				講義	市川
9	呼吸器内科疾患 2	症状とその病態生理 2				講義	
10	呼吸器内科疾患 3	検査・治療・処置				講義	
11	呼吸器内科疾患 4	呼吸器感染症 1 COVID-19				講義	
12	呼吸器内科疾患 5	呼吸器感染症 2 気管支喘息 肺結核				講義	
13	呼吸器内科疾患 6	慢性閉塞性肺疾患 肺高血圧 肺塞栓症				講義	
14	呼吸器内科疾患 7	肺腫瘍 気胸				講義	
15	呼吸器外科疾患	肺の外科				講義	杉山
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～7 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(1)病理学 医学書院 回数8～14 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器 医学書院 回数15 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	病理学Ⅱ	担当 教員	外部講師 日比野 剛* 八神 啓* 高津 哲郎*	単位数	1	時期	1 年次 7 月～
				時間数	30		
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。							
目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。							
2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。							
3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	循環器の疾患 1	循環器の構造と機能 症状とその病態生理			講義	日比野	
2	循環器の疾患 2	虚血性心疾患			講義		
3	循環器の疾患 3	心不全			講義		
4	循環器の疾患 4	弁膜症、心筋症、心筋炎、先天性心疾患			講義		
5	循環器の疾患 5	不整脈			講義		
6	循環器の疾患 6	大動脈疾患、静脈疾患			講義		
7	心臓血管外科 1	虚血性心疾患 動脈閉塞及び血流障害			講義	八神	
8	心臓血管外科 2	心臓弁膜症			講義		
9	心臓血管外科 3	動脈瘤 静脈の血流障害			講義		
10	運動器の疾患 1	運動器の構造と機能			講義	高津	
11	運動器の疾患 2	症状とその病態生理			講義		
12	運動器の疾患 3	検査・治療・処置			講義		
13	運動器の疾患 4	骨折 脱臼 骨粗鬆症			講義		
14	運動器の疾患 5	腫瘍 変形性関節症			講義		
15	運動器の疾患 6	脊椎疾患 骨・関節の炎症性疾患			講義		
評価方法		筆記試験(1 時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト：					
		回数1～6 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3) 循環器 医学書院					
		回数7～9 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院					
		系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					
		回数10～15 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10) 運動器 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	病理学Ⅲ	担当 教員	外部講師 奥村 文浩* 梶川 真樹* 一川 貴洋* 森 正彦* 光本 一樹*	単位数	1	時期	1 年次
				時間数	30		9 月～
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。							
目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。							
2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。							
3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法		担当教員
1	消化器内科疾患 1	消化器の構造と機能			講義		奥村
2	消化器内科疾患 2	消化器症状の病態生理 検査・治療			講義		
3	消化器内科疾患 3	食道疾患 胃・十二指腸疾患			講義		
4	消化器内科疾患 4	大腸の疾患			講義		
5	消化器内科疾患 5	肝臓・胆のう・膵臓の疾患			講義		
6	消化器外科疾患 1	食道の外科			講義		梶川
7	消化器外科疾患 2	胃・十二指腸の外科			講義		
8	消化器外科疾患 3	腸の外科			講義		
9	消化器外科疾患 4	肝臓・胆のう・膵臓の外科			講義		
10	乳腺・頸部外科疾患 1	甲状腺外科			講義		一川
11	乳腺・頸部外科疾患 2	乳腺外科			講義		
12	女性生殖器疾患 1	女性生殖器の構造と機能 子宮の疾患			講義		森
13	女性生殖器疾患 2	卵管・卵巣の疾患 月経異常・更年期障害			講義		
14	内分泌疾患 1	内分泌疾患 糖尿病 1			講義		光本
15	内分泌疾患 2	糖尿病 2			講義		
評価方法		筆記試験(1 時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト					
		回数1～5 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器 医学書院					
		回数6～11 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院					
		系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					
		回数12～13 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9) 女性生殖器 医学書院					
		回数14～15 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6) 内分泌・代謝 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	病理学Ⅳ	担当 教員	外部講師 岩井 雅則＊ 高木伸之介＊ 杉田竜太郎＊ 杉山 豊＊ 藤田 高史＊ 桃井 守＊	単位数 時間数	1 30	時期	1 年次 1 0 月 ～
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	血液造血器疾患 1	血液の生理と造血のしくみ 検査・診断・治療			講義	岩井	
2	血液造血器疾患 2	貧血 白血球減少症 白血病			講義	岩井	
3	血液造血器疾患 3	悪性リンパ腫 多発性骨髄腫			講義	岩井	
4	脳神経内科疾患 1	脳・神経系の構造と機能 症状とその病態生理			講義	高木	
5	脳神経内科疾患 2	脳血管障害 感染症			講義	高木	
6	脳神経内科疾患 3	パーキンソン症候群 筋萎縮性側索硬化症 多発性硬化症			講義	高木	
7	脳神経内科疾患 4	認知症 脊髄疾患 てんかん			講義	高木	
8	脳神経外科疾患 1	頭蓋内圧亢進 脳ヘルニア 検査・診断・治療			講義	杉田	
9	脳神経外科疾患 2	脳血管障害			講義	杉田	
10	脳神経外科疾患 3	脳腫瘍 頭部外傷 水頭症			講義	杉田	
11	腎臓内科疾患 1	腎の構造と機能 電解質 排尿トラブル 尿・腎の検査			講義	杉山	
12	腎臓内科疾患 2	急性腎障害と慢性腎臓病 腎不全 透析と腎移植			講義	杉山	
13	腎臓内科疾患 3	ネフローゼ症候群 糸球体腎炎			講義	杉山	
14	泌尿器疾患 1	泌尿器の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置			講義	藤田	
15	泌尿器疾患 2	前立腺癌 腎腫瘍 膀胱癌 腎・尿路結石			講義	桃井	
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～3 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(4) 血液・造血器 医学書院 回数4～7 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7) 脳・神経 医学書院 回数8～10 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(7) 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 回数11～15 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(8) 腎臓・泌尿器 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業		担当	外部講師 ①杉山 豊 * 澤崎百合香 * 宇佐美 欽通 * 岩田 知之 * 河原 康 * 安藤 道代 * 山崎 潤二 * 稲垣 雅昭 * ②有我 夏美 * ③蓑島 靖丈 *	単位数	1		1 年次
科目	病理学Ⅴ	教員		時間数	30	時期	11月～
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。							
目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。							
2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。							
3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	免疫・アレルギー疾患 1	アレルギー疾患			講義	杉山	
2	免疫・アレルギー疾患 2	自己免疫疾患			講義		
3	皮膚科疾患	皮膚の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置 アトピー性皮膚炎 帯状疱疹 熱傷			講義	澤崎	
4	眼科疾患 1	目の構造と機能 症状と病態生理 治療・処置			講義	宇佐美	
5	眼科疾患 2	白内障 緑内障 網膜剥離 網膜症			講義		
6	耳鼻科疾患 1	耳と鼻の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置 顔面神経麻痺			講義	岩田	
7	耳鼻科疾患 2	外耳・中耳・内耳の疾患 メニエール病 鼻・咽頭・喉頭・唾液腺疾患			講義		
8	歯・口腔の疾患 1	歯と口腔の構造と機能 症状と病態生理 検査・治療・処置			講義	河原	
9	歯・口腔の疾患 2	口腔粘膜疾患 顎骨の骨折 顎関節症 腫瘍 先天異常			講義	安藤	
10	麻酔	麻酔の種類、術前・術中・術後管理			講義	山崎	
11	手術侵襲と管理	手術侵襲と生体反応			講義		
12	救急処置 1	主要病態に対する救急処置 1			講義	稲垣	
13	救急処置 2	主要病態に対する救急処置 2 全身の観察			講義		
14	救急患者の観察	各系統別の観察とアセスメント			講義	有我	
15	医療器具の原理と実際	人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ			講義	蓑島	
評価方法		筆記試験(1 時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト					
		回数1～2 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(11) アレルギー 膠原病 感染症 医学書院					
		回数3 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(12) 皮膚 医学書院					
		回数4～5 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(13) 眼 医学書院					
		回数6～7 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(14) 耳鼻咽喉 医学書院					
		回数8～9 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(15) 歯・口腔 医学書院					
		回数10～14 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院					
		回数15 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	微生物学	担当 教員	外部講師 末松 寛之*	単位数	1	時期	1 年次 4 月～
				時間数	30		
目的：微生物学の体系的な基礎知識を学び、人体に及ぼす影響および対応できる基礎的能力を養う。							
目標：1) 微生物学の特徴を理解する。							
2) 感染症について学び、その予防対策を理解する。							
3) 免疫の種類と疾患について理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	ヒトと感染症	感染症とは、治療、検査・診断のあゆみ			講義	末松	
2	感染・感染症の機構	感染症の成立と経過、感染症の種類			講義		
3	感染・感染症の種類	感染源と感染経路、感染因子、感染症の種類			講義		
4	免疫と生体防御機構	免疫とその種類、細胞性・液性免疫、抗原抗体反応			講義		
5	免疫と生体防御機構	移植・輸血と免疫、免疫異常			講義		
6	感染症の予防と 感染制御対策・技術	滅菌と消毒、予防接種			講義		
7	感染症の予防と 感染制御対策・技術	院内感染予防対策 法律による感染症対策			講義		
8	細菌感染症 1	細菌の形態・構造と分類 細菌感染症の治療と予防			講義		
9	細菌感染症 2	主な病原細菌と疾患			講義		
10	細菌感染症 3	主な病原細菌と疾患			講義		
11	細菌感染症 4	主な病原細菌と疾患			講義		
12	ウイルス感染症 1	ウイルスの病原性、検査・診断			講義		
13	ウイルス感染症 2	主な病原ウイルスと疾患			講義		
14	ウイルス感染症 3	主な病原ウイルスと疾患 主な病原真菌と疾患、原虫、衛生動物			講義		
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験、授業の出席状況、態度を総合的に評価					
参考文献と資料		テキスト：わかる！身につく！病原体・感染・免疫 南山堂					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	薬理学	担当 教員	外部講師 宮部 芳之 *	単位数	1	時期	1 年次 9 月～
				時間数	30		
目的：薬の作用を理解し、人に及ぼす影響を学び、臨床に役立てる。							
目標：1) 薬理学とは何か理解する。							
2) 薬の特徴と作用から生体への反応を理解する。							
3) 薬の管理について学ぶ。							
4) 薬物療法における看護師の役割を学ぶ。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	薬理学概要	薬による病気の治療のメカニズム			講義	宮部	
2	薬の作用機序 1	薬の作用機序、薬物療法時の看護師の役割 薬の作用と投与経路			講義		
3	薬の作用機序 2	薬の体内動態、小児・高齢者への影響 薬効に影響する因子、薬の相互作用			講義		
4	薬の作用機序 3	薬物中毒のしくみ、医薬品の法的規制			講義		
5	薬の作用機序 4	新薬の開発、感染症と抗菌剤のしくみ			講義		
6	抗生物質・感染対策	抗生物質の使い方と有害作用 特殊な感染症とその対応、院内感染対策			講義		
7	治療に関する薬物 1	がん治療薬 化学療法、副作用対策 免疫抑制剤、増強剤とその適応			講義		
8	治療に関する薬物 2	抗アレルギー薬、炎症、リウマチ、痛風に作用する薬 末梢神経作用薬、神経作用の増強、抑制薬			講義		
9	治療に関する薬物 3	中枢神経作用薬、麻酔、精神病に用いる薬、高血圧 メタボリックシンドロームと心血管疾患、狭心症治療薬			講義		
10	治療に関する薬物 4	心不全、不整脈、利尿薬、高脂血症の治療と薬物			講義		
11	治療に関する薬物 5	貧血治療薬、抗血液凝固薬、気管支喘息治療薬			講義		
12	治療に関する薬物 6	消化器、生殖器、糖尿病治療薬、生活改善薬			講義		
13	治療に関する薬物 7	甲状腺、下垂体と骨粗鬆症治療薬、皮膚科、眼科治療薬			講義		
14	治療に関する薬物 8	救急医療に使われる薬剤、消毒薬、漢方薬			講義		
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進（3） 薬理学 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業 科目	栄養学	担当 教員	外部講師 須藤由美子* 細江香苗* 日比野春美* 渡辺 愛* 西田 朱里*	単位数	1	時期	2年次
				時間数	30		9月～
目的：生体の生命活動や健康に関与する事柄を栄養面から学び、疾患の種類や状態によって、必要な食事療法を理解し、看護実践における栄養学的な知識を習得する。							
目標：1) 栄養素の種類と働きについて理解する。 2) エネルギー代謝と栄養素の体内代謝について理解する。 3) 栄養状態の評価・判定の目的とその方法について学ぶ。 4) ライフサイクルにおける栄養の重要性を理解する。 5) 治療食の種類と目的を理解し、治療食に合わせた食材選びと調理方法を体験し、試食することで健康な人の食事との違いを学ぶ。							
回数	学習課題	内 容			方 法		担当教員
1	栄養素の種類と働き 1	糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル			講義		須藤
2	栄養素の種類と働き 2	食物繊維、水、食物の消化、栄養素の吸収			講義		
3	エネルギー代謝 基礎代謝量	食品のエネルギー・体内エネルギー エネルギー代謝の測定、エネルギー消費			講義		
4	代謝	血漿成分と栄養素、栄養素の代謝、肝臓の働き 核酸代謝、ポルフィリン代謝、吸収・代謝産物の排泄			講義		細江
5	人間栄養学と看護 栄養ケア・マネジ メント	栄養を学ぶということ、保健医療における栄養学、看護と栄養 チームアプローチと栄養ケア・マネジメント、栄養スクリーニング 栄養アセスメント、栄養ケア計画、計画の実施と確認 栄養ケア・マネジメントの評価、計測実習			講義		
6	栄養状態の評価・判定	栄養状態の評価・判定、計測実習			講義		
7	食事と食品	人間の食事と食文化、日本人の食事摂取基準 食品と栄養素、食品群とその分類方法、食品の調理			講義		日比野
8	健康づくりと食生活	食生活の変遷と栄養の問題点 食生活の改善への施策、食の安全性と表示			講義		
9	ライフステージと栄養	乳幼児期、幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期 妊娠期、授乳期、更年期、高齢期			講義		
10	臨床栄養 1	チームで取り組む栄養管理、栄養補給法 病院食、経腸栄養製品、静脈栄養剤			講義		渡辺
11	臨床栄養 2	疾患・症状別食事療法の実際 1 (循環器疾患、消化器疾患、栄養・代謝疾患)			講義		
12	臨床栄養 3	疾患・症状別食事療法の実際 2 (腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患、骨粗鬆症患者 咀嚼・嚥下障害患者)、場面別の栄養管理、がんの食事療法			講義		
13	調理演習 1	病院治療食演習 1			演習		渡辺・西田
14	調理演習 2	病院治療食演習 2			演習		
15	まとめ・試験						渡辺
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（3） 栄養学 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	保健医療論	担当 教員	外部講師 近藤 泰三 *	単位数	1	時期	3 年次 4 月～
				時間数	15		
目的：現代医療の全体像を描き、保健・医療実践の課題を学ぶ。							
目標：1）保健・医療の対象である人の生命・健康・病みについて理解する。							
2）生活と保健・医療の関係を理解する。							
3）先端医療技術を学ぶと共に、倫理的問題を理解する。							
4）医療の現場における患者の権利と医療者の責務について理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法		担当教員
1	医療と看護の原点	命と健康			講義		近藤
2	私達の生活と医療 1	病気や怪我をしたら			講義		
3	私達の生活と医療 2	病気や怪我をしたら			講義		
4	技術社会の高度化 1	先端医療の問題点			講義		
5	技術社会の高度化 2	現代医療の落とし穴・倫理上のジレンマ			講義		
6	成熟する社会と人々の意識改革	インフォームドコンセントと医療開示			講義		
7	生命倫理	エイズ・安楽死			講義		
8	まとめ				講義		
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	地域保健活動論	担当 教員	外部講師 植松 勝子＊	単位数	1	時期	3 年次 4 月～
				時間数	15		
目的：個人や家族、特定集団より構成される地域全体を視野におき、各々のセルフケア能力の向上、 家族・地域の力量を高めるコミュニティケアの実際を知る。							
目標：1）地域に存在する健康問題への支援方法を学ぶ。 2）対象集団や関係機関の人々と連携し協働し、健康問題を解決するケアやサービスを知る。 3）地域に存在する社会資源の活用と新たな社会資源開発を知る。 4）地域で生活する人々が自分の生活と健康の関係を認識し、主体的に取り組みができるよう 支援できる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	地域看護とは 地域看護の理念	地域看護の理念・公衆衛生の理念			講義	植松	
2	地域看護活動の歴史	日本における地域看護の歴史			講義		
3	地域看護の対象	対象としての個人・家族・グループ・組織・地域			講義		
4	地域看護の場	行政機関・職種・学校・医療機関・社会福祉施設 ・国際			講義		
5	社会環境の変化と 健康問題	社会情勢の変化			講義		
6	地域看護活動の展開	健康と生活・理論および展開方法 地域看護活動の方法			講義		
7	活動の計画・実践・評価 地域看護管理	地域看護活動の展開における地域診断 地域看護活動に関する法令			講義		
8	試験（1h）						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	看護学概論	担当教員	専任教員 永田 陽子*	単位数	1	時期	1 年次 4 月～
				時間数	30		
目的：看護の概念・理念および看護の変遷を学び、看護の対象を正しく捉え、看護の本質を理解する。							
目標：1) 人間のライフサイクルにおける健康の意義を理解する。							
2) 看護の対象である人間を、全人的に理解する。							
3) 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。							
4) 保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。							
5) 専門職業人としての態度を身につけ、倫理に基づいた行動ができる。							
6) 看護の変遷を理解し、今後の看護の課題と方向性について考えることができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	看護の本質 1	看護の定義と特性			講義	永田	
2	看護の本質 2	看護の変遷 看護の役割と機能			講義		
3	看護の対象 1	統合体としての人間			講義		
4	看護の対象 2	生活者としての人間の理解 健康障害を持つ対象の理解 ストレスと適応			講義		
5	人間にとっての健康 1	健康のとらえ方 ライフサイクルと健康			講義		
6	看護における倫理 1	看護倫理 倫理的課題と対応			講義		
7	人間にとっての健康 2	健康と病気に影響する関連要因 1			講義		
8	人間にとっての健康 3	健康と病気に影響する関連要因 2			講義		
9	看護における倫理 2	看護実践における法的側面 医療事故における法的責任			講義		
10	看護の理論と実践 1	看護実践のための理論的根拠 1			講義		
11	看護の理論と実践 2	看護実践のための理論的根拠 2			講義		
12	看護提供のしくみ 1	看護サービスの提供の場 看護の継続性			講義		
13	看護提供のしくみ 2	看護のマネジメント 看護をめぐる制度と政策			講義		
14	看護の活動領域	災害看護、国際化と看護			講義		
15	試験とまとめ						
評価方法		筆記試験 80点 グループワークなどを総合的に評価、レポート 20点					
参考文献と資料		テキスト：ナーシンググラフィカ 基礎看護学（1）看護学概論 第6版 MCメディカ出版 参考文献：看護覚え書 現代社 新改訂 実践に生かす看護理論 19 サイオ出版 看護六法 新日本法規 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社					
事前準備や受講要件等		自己学習をして授業に臨む。					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	看護論セミナー	担当教員 旗屋 麻紀*	専任教員 旗屋 麻紀*	単位数	1	時期	1 年次 5 月～
				時間数	15		
目的：対象の基本的欲求を学び、人間を統合体として理解できる。							
目標：1) ヴァージニア・ヘンダーソンの看護の概念と概念枠組みが理解できる。							
2) 「基本的看護の構成要素」の充足した状態が理解できる。							
3) 人間を統合体として理解できる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	看護理論とは看護の独自の機能・基本的看護ケア	看護理論とは、看護理論を学ぶ意義 看護の独自の機能・基本的看護ケア グループワークの進め方：呼吸			講義	旗屋	
2	看護の基本的構成要素の理解 1	飲食・排泄・姿勢			講義		
3	看護の基本的構成要素の理解 2	睡眠・衣類・体温			講義		
4	看護の基本的構成要素の理解 3	清潔・環境・コミュニケーション			講義		
5	看護の基本的構成要素の理解 4	信仰・達成感・レクリエーション・学習			講義		
6	看護の基本的構成要素の理解 5	基本的看護の構成要素14項目の発表			講義		
7	統合体としての人間理解 1	1 4 の基本的欲求の統合			講義		
8	統合体としての人間理解 2 (1h)	統合体としての人間理解の発表			講義		
評価方法		グループワークなどを総合的に評価、記録物					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～8 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護覚え書 現代社 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーゲルヒロカリ					
事前準備や受講要件等		基礎看護学Ⅰ 看護概論履修					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	基礎技術Ⅰ		担当 教員	専任教員 横田千代美* 遠藤 彩加*	単位数	1	時期	1 年次 4 月～
					時間数	30		
目的：看護技術の構造を明らかにし、看護場面に共通する基本的技術を習得する。 目標：1) 相互作用としてのコミュニケーションの特徴と重要性がわかる。 2) 効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を理解する。 3) 望ましい対人関係について理解し、自分の対人関係を振り返ることができる。 4) 感染予防策の基礎的知識を学び、スタンダードプリコーション（標準的感染予防策）が習得できる。								
回数	学習課題			内 容		方 法		担当教員
1	看護技術とは			看護技術の特徴・範囲 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得		講義		横田
2	コミュニケーションの技術	コミュニケーションとは		コミュニケーションとは 対人関係プロセスとしての看護 看護とコミュニケーション		講義		
3		コミュニケーションに影響する要因		文化とコミュニケーション 人間関係と空間		講義		
4		効果的なコミュニケーション		医療における信頼関係とコミュニケーション プロセスレコード		講義		
5		看護場面でのコミュニケーション1		技法を使ったコミュニケーション 自己紹介・同意書のとり方		演習		
6		看護場面でのコミュニケーション2		療養環境に応じたコミュニケーション		演習		
7		看護場面でのコミュニケーション3		患者の思いに触れるコミュニケーション		演習		
8		看護場面でのコミュニケーション4		実習後のコミュニケーションの振り返り		講義		
9		コミュニケーション障害への対応		コミュニケーション障害のある人の特徴と対応		講義		
10	感染予防の技術	感染予防の基本		感染成立の仕組み・感染予防策の基本的な考え方		講義		遠藤
11		感染源対策		看護師の役割と責務 消毒・滅菌の意義と方法 感染予防のための対策		講義		
12		感染防止の実際 1		手洗い・滅菌手袋の取り扱い・ガウンテクニック		演習		
13		感染防止の実際 2		滅菌物の取り扱い・無菌操作		演習		
14		感染防止の実際 3		滅菌物の取り扱い・無菌操作		演習		
15	技術チェック（1h）		無菌操作の技術チェック		演習			
16	試験（1h）							
評価方法			筆記試験 *筆記試験とは別に、無菌操作の技術チェックを実施					
参考文献と資料			テキスト： 回数1～14 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ ぎょうせい 社 基礎看護技術 医学書院 回数2～9 基礎からステップアップ 看護コミュニケーション へるす出版					
事前準備や受講要件等			自己練習をした上で技術チェックに臨む。					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅱ	担当教員	専任教員 加治屋美恵子*	単位数 時間数	1 30	時期	1年次 6月～
目的：看護場面に共通する基本的技術を習得する。							
目標：1) 看護記録の意義と記録の基礎を理解し、POSで記録を書くことができる。							
2) バイタルサインの意義について学び、正確な観察と測定の方法を習得する。							
3) フィジカルアセスメントの基本技術を学び、習得する。							
回数		学習課題	内 容	方 法	担当教員		
1	看護記録	看護記録とは	看護記録に関する法的規定 看護記録の目的と意義 看護記録の構成要素と記載基準	講義	加治屋		
2		看護記録と報告	看護学生の医療情報管理 報告の目的と重要性 POSの記録方法	講義			
3	生体機能管理技術	フィジカルアセスメントの基本	フィジカルアセスメントの意義、身体各部の計測 アセスメントテクニック(問診、視診・聴診・触診・打診)	講義			
4		バイタルサインの観察1	バイタルサインの意義 1) 体温 2) 呼吸 3) 脈拍・心拍	講義			
5		バイタルサインの測定1	体温・脈拍・呼吸の測定	演習			
6		バイタルサインの観察2	4) 血圧 5) 意識レベル	講義			
7		バイタルサインの測定2	血圧の測定	演習			
8		バイタルサインの測定3	事例を考えたバイタルサインの測定	演習			
9		フィジカルアセスメントの実際1	呼吸器系のアセスメント	講義・演習			
10		フィジカルアセスメントの実際2	循環器系のアセスメント	講義・演習			
11		フィジカルアセスメントの実際3	消化器系・感覚器系のアセスメント	講義・演習			
12		フィジカルアセスメントの実際4	運動器系・中枢神経系のアセスメント	講義・演習			
13		フィジカルアセスメントの実際5	呼吸器系・循環器系・消化器系・中枢神経系の フィジカルアセスメント	演習			
14		記録・報告の実際	事例を考えた記録・報告の実際	演習			
15	技術チェック(1h)		血圧測定 of 技術チェック	演習			
16	試験(1h)						
評価方法			筆記試験 *筆記試験とは別に、血圧測定 of 技術チェックを実施				
参考文献と資料			テキスト： 回数1～8 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護技術 医学書院 回数9～14 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 基礎看護技術 医学書院 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社				
事前準備や受講要件等			呼吸器系の解剖生理 ・循環器系の解剖生理 ・消化器系の解剖生理 感覚器系の解剖生理 ・運動器系の解剖生理 ・中枢神経系の解剖生理 ・自己練習した上で技術チェックに臨む。				

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	基礎技術Ⅲ	担当 教員	専任教員 横田千代美* 遠藤 彩加*	単位数 1 時間数 30	時期 4月～	1 年次
目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。 目標：1) 安楽かつ快適さを確保する技術を理解する。 2) 実習で起こりうるヒヤリ・ハットの発生要因を理解し、防止策の基本を理解する。 3) 看護における環境調整の意義と環境条件を理解する。 4) ベッドメイキングに必要な基本的技術を習得する。 5) 患者の状態に合わせた療養環境を整える方法を習得する。 6) 安全・安楽なシーツ交換技術を習得する。						
回数		学習課題	内 容	方法	担当教員	
1	安全 の・ 技安 術楽 確保	安全・安楽を守るための技術	安全・安楽の意義と阻害する因子 看護技術に必要な安全性と安楽性	講義	横田	
2		安全管理	ヒヤリハットとは	講義		
3		安楽を確保する方法	リラクゼーション 痛みの軽減 感覚への刺激	講義		
4	環境 調整 の 技術	環境の調整	看護における環境調整の意義 安全・安楽な環境条件	講義	遠藤	
5		患者を取り巻く生活環境 1	望ましい病床整備について 病院、病棟、病床を構成するもの	講義		
6		患者を取り巻く生活環境 2	プライバシーと環境整備	講義		
7		ベッドメイキングの実際 1	必要物品と置き方、リネン類の畳み方 オープンベッド 1	演習		
8		ベッドメイキングの実際 2	オープンベッド 2	演習		
9		ベッドメイキングのまとめと技術チェック	ベッドメイキングのまとめと技術チェック	演習		
10		療養環境を整えるための援助 1	療養環境を整えるための援助の実際	演習		
11		療養環境を整えるための援助 2	療養環境を整えるための援助の実際	演習		
12		シーツ交換の実際 1	シーツ交換 1 シーツ交換時の留意事項	演習		
13		シーツ交換の実際 2	シーツ交換 2	演習		
14		シーツ交換の実際 3	シーツ交換 3	演習		
15		技術チェック（1h）	シーツ交換の技術チェック	演習		
16		試験（1h）				
評価方法		筆記試験 70点 グループワークなどを総合的に評価、課題への取り組みなど 30点 *筆記試験とは別に、ベッドメイキング・シーツ交換の 技術チェックを実施				
参考文献と資料		テキスト： 回数 1 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 回数 2～3 基礎看護技術 医学書院 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 回数 4～5 フロレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」現代社 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 回数 6～8 基礎看護技術 医学書院 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 回数 12～14 基礎看護技術 医学書院				
事前準備や受講要件等		講義前に「看護覚え書き」フロレンス・ナイチンゲールを読む。 演習前にDVD・VHSを視聴する。基礎看護技術「ⅤⅠベッドメイキング」 基礎看護技術「ⅤⅡリネンチェンジ」 ・ベッドメイキング・シーツ交換の技術チェックは、自己練習をした上で、技術 チェックに臨む。				

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	基礎技術Ⅳ	担当 教員	専任教員 横田千代美* 池戸 梨香* 外部講師 福田 典子*	単位数 時間数	1 30	時期	1 年次 6 月～
目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。							
目標：1) ボディメカニクスの原理に基づいた体位変換の技術の基本を習得する。							
2) 移動・移送技術の基礎を習得する。							
3) 清潔の生理的・精神的・社会的意義が理解でき、清潔の援助に必要な基本的技術を習得する。							
回数		学習課題	内 容		方 法	担当教員	
1	活動と休息の援助技術	睡眠と休息	生活のリズムと活動・運動 睡眠と休息		講義	横田	
2		姿勢と動作	姿勢と動作 安楽な体位 体位変換と移動		講義		
3		移動・移送の援助 1	体位変換の方法		演習		
4		移動・移送の援助 2	ベッド上移動動作		演習		
5		移動・移送の援助 3	安楽な体位を保つ方法の実際 1 移動・移送の実際		演習		
6		移動・移送の援助 4 (1h)	安楽な体位を保つ方法の実際 2		演習		
7	清潔・衣生活の援助技術	清潔の意義と援助 臥床患者の清潔の援助方法 1	清潔の意義 清潔の援助に必要な知識 1) 衣生活・整容 2) 寝衣交換 3) 全身清拭		講義	池戸	
8		臥床患者の清潔の援助方法 2	1) 部分清拭 2) 部分浴 3) 洗髪		講義		
9		臥床患者の清潔の援助方法の実際 1	全身清拭 + 寝衣交換		演習		
10		臥床患者の清潔の援助方法の実際 2	全身清拭 + 寝衣交換		演習		
11		臥床患者の清潔の援助方法の実際 3	足浴		演習		
12		臥床患者の清潔の援助方法の実際 4	洗髪		演習	福田	
13		臥床患者の清潔の援助方法の実際 5	洗髪		演習		
14		臥床患者の清潔の援助方法の実際 6	口腔ケア ・ 歯磨き		講義・演習		
15		臥床患者の清潔の援助方法の実際 7	口腔ケア ・ 歯磨き		演習		
16	試験 (1h)					池戸	
評価方法			筆記試験				
参考文献と資料			テキスト：新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ ナチュラール社 基礎看護技術 医学書院				
事前準備や受講要件等			第 3 回の演習前にDVDを視聴する。 基礎看護技術「移動・移送の援助」 皮膚・毛髪の解剖生理 演習前にDVDを視聴する。「全身清拭」「足浴」「洗髪」「口腔ケア」				

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	基礎技術Ⅴ	担当 教員	専任教員 遠藤 彩加＊	単位数 時間数	1 30	時期	1 年次 9 月～
目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。							
目標：1）栄養と食事に関する基礎的知識を学び、患者の状態に適した食事介助の方法について理解し実施できる。							
2）経管栄養法を受けている患者の観察と流動食の注入ができる。							
3）排泄とは何かを学び、排泄の意義と重要性について理解する。							
4）対象に必要な排泄援助技術を、原理・原則をふまえ、安全・安楽に実施できる。							
回数		学習課題	内 容		方 法		担当教員
1	食生活と栄養摂取の援助技術	食事の意義と栄養	食事の意義 栄養と食事に関する基礎的知識		講義		遠藤
2		病人への食事 経口摂取の方法	食事と健康 食事療法 経口摂取への援助の実際		講義		
3		非経口的栄養法	経管・経腸栄養法・経静脈栄養法 経鼻胃チューブによる栄養摂取の実際		講義		
4		経口摂取の実際 1	食事摂取の自立困難な患者への援助		演習		
5		経口摂取の実際 2 経管栄養法の実際	嚥下困難にて経口的に食事がとれない患者への援助 経管栄養法		演習		
6	排泄の援助技術	排泄に関する基礎知識	排泄の意義、メカニズム 排尿・排便の異常と障害		講義		
7		排泄への基本的援助	排泄の援助の必要な対象 尿・便器使用時の援助 自然排尿、自然排便への援助		講義		
8		便器・尿器による排泄の実際 1	床上排泄（便器・尿器）		演習		
9		便器・尿器による排泄の実際 2 （1 h）	オムツを用いての排泄の援助 1		講義		
10		便器・尿器による排泄の実際 3	オムツを用いての排泄の援助 2		演習		
11		排泄障害のある人への援助 排便障害時の援助	排便障害とは 浣腸・摘便		講義		
12		排便障害時援助の実際	グリセリン浣腸		演習		
13		排泄障害のある人への援助 排尿障害時の援助	排尿障害とは 導尿・膀胱留置カテーテル		講義		
14		排尿障害時の援助 1	導尿の実際 1		演習		
15		排尿障害時の援助 2	導尿の実際 2 留置カテーテル法の留意点		演習		
16	試験（1 h）						
評価方法			筆記試験				
参考文献と資料			テキスト：新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ ぎょうせい 社 基礎看護技術 医学書院				
事前準備や受講要件等			消化器の解剖生理、消化・吸収の仕組みについて 泌尿器・消化器の解剖生理、排尿・排便のメカニズムについて 演習前にDVDを視聴する。 技術シリーズ「経管栄養のポイント」 基礎看護技術「Ⅴ o 1. 1 排尿・排便の援助」 看護技術シリーズ「Ⅴ o 1. 4 浣腸・摘便」 ・第6回～15回までは各演習の前に、技術の自己練習をした上で臨む。				

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	基礎技術Ⅵ	担当 教員	専任教員 旗屋 麻紀＊	単位数 時間数	1 30	時期	1 年次 1 0 月～
目的：看護の理論的知識を基に問題解決思考を習得する。							
目標：1) 看護過程の目的・意義を理解する。							
2) ヘンダーソン看護理論を用いた看護過程の展開方法を学ぶ。							
3) 事例をとおして、看護過程の展開ができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法		担当教員
1	看護過程の意義	看護過程の基本 科学的思考プロセスとしての技術			講義		旗屋
2	看護過程の展開 1	情報の意義・情報の確認・整理 (常在条件・病理的狀態)			講義		
3	看護過程の展開 2	一般病態関連図			講義		
4	看護過程の展開 3	病理的狀態に基づく情報の分析・解釈・初期計画			講義		
5	看護過程の展開 4	全体像			講義		
6	看護過程の展開 5	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈 1			講義		
7	看護過程の展開 6	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈 2			講義		
8	看護過程の展開 7	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈 3			講義		
9	看護過程の展開 8	問題の明確化 (看護診断)			講義		
10	看護過程の展開 9	看護問題の統合・優先順位			講義		
11	看護過程の展開10	全体関連図			講義		
12	看護過程の展開11	看護計画に基づく演習の進め方			講義		
13	基礎看護技術 1	事例に応じた援助計画実施			演習		
14	基礎看護技術 2	事例に応じた援助計画実施・評価・修正			演習		
15	まとめ・試験				講義		
評価方法		記録物 (看護過程) による評価 70点 筆記試験 30点					
参考文献と資料		テキスト： 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 参考文献： 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーヴェルヒロカ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 (2) 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社					
事前準備や受講要件等		自己学習をして授業に臨む。					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	基礎技術Ⅶ	担当 教員	専任教員 ①横田千代美 * 森川 菜穂 * ②救急救命士 * 外部講師 ③日浅 友裕 *	単位数 時間数	1 30	時期	1 年次 1 2 月～
目的：対象に必要な診療に伴う技術を習得する。							
目標：1) 酸素吸入・薬液吸入療法について理解し安全・安楽に援助できる。							
2) 排痰法の基礎的知識を学び、安全・安楽に技術が実施できる。							
3) 体温異常時の対応方法を習得する。							
4) 生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。							
5) 救急処置の基礎知識と一時救命処置に関する知識と技術を習得する。							
6) 危篤時、終末期の看護を理解する。							
回数		学習課題	内 容		方 法	担当教員	
1	呼吸・循環を整える技術	安楽な呼吸	呼吸の意義とアセスメント 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法		講義	横田	
2		酸素吸入療法 吸入療法 人工呼吸療法	援助の基礎知識 援助の実際		講義		
3		排痰ケア	排痰ケアの基礎知識 排痰ケアの援助の実際 持続吸引（胸腔ドレナージ）		講義		
4		吸引と吸入の実際	吸引・吸入の実際と援助		演習		
5		酸素療法との実際	酸素療法の実際と援助		演習		
6		体温異常時の看護 1	1) 体温管理・保温の基礎知識 2) 巻法の種類と適応		講義		
7		体温異常時の看護 2	1) 温巻法 冷巻法の実際		演習		
8		呼吸・循環を整える援助 1	事例を考えた呼吸・循環を整える援助の実際 1		演習		
9		呼吸・循環を整える援助 2	事例を考えた呼吸・循環を整える援助の実際 2		演習		
10	救命・救急処置技術	生体機能のモニタリング	1) 救急処置の基礎知識 2) 心肺蘇生法 3) 止血法		講義	森川	
11		救急処置の実際 1	1) 心電図検査 2) 心電図モニター 3) Spo2モニター 4) 血管留置カテーテルモニター		演習		
12		救急処置の実際 2 (1h)	4) 止血法の実際		演習		
13		救急処置の実際 3	一時救命処置の実際		講義	救命救急士	
14	終末期における援助	危篤・終末期の看護 1	死の兆候とケア		講義	日浅	
15		危篤・終末期の看護 2	死亡後のケア・遺族への関わり（グリーフケア）		講義		
16	試験（1h）					横田	
評価方法			筆記試験				
参考文献と資料			テキスト： 回数1～13 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 基礎看護技術 医学書院 回数14～15 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 基礎看護技術 医学書院				
事前準備や受講要件等							

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業 科目	基礎技術Ⅶ	担当 教員	専任教員 池戸 梨香 * 遠藤 彩加 *	単位数 時間数	1 30	時期	2 年次 4 月～
目的：対象に必要な診療に伴う技術を習得する。							
目標：1) 包帯法の基礎的知識を学び、目的に応じた援助方法を実施する。							
2) 与薬の目的と看護師の役割と法的責任を理解する。							
3) 安全に与薬を実施するための基礎的知識及び技術を習得する。							
4) 安全に輸血を実施するための基礎的知識及び方法を理解する。							
5) 診察・検査における看護師の役割が理解する。							
回数		学習課題	内 容		方 法		担当教員
1	褥瘡 術 管 理	創傷処置・包帯法 1	創傷処置・包帯法の基礎知識		講義		池戸
2		創傷処置・包帯法 2	創傷処置・包帯法		演習		
3	与薬・ 輸血の 技術	与薬 1	薬物療法の理解 薬物療法における看護師の役割 薬物療法を受ける患者の援助		講義		
4		与薬 2	経口与薬法 外用薬の皮膚・粘膜適用		講義		
5		注射法について 1	注射法とは 注射法における看護師の役割と患者の援助 注射に必要な器具とその取り扱い		講義		
6		注射法について 2	各種注射に共通する実施方法 注射による合併症		講義		
7		注射法について 3	1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射		講義		
8		注射法について 4	4) 静脈内注射 5) 点滴静脈内注射 6) 輸液ポンプの操作		講義		
9		注射法の実際 1	筋肉内注射		演習		
10		注射法の実際 2	点滴静脈内注射		演習		
11		輸血療法	輸血療法の基礎知識・方法		講義		
12	症状・ 管理 技術 ・ 生体 機能	診察・検査 1	診察・検査に伴う看護の役割 1) 検体検査 2) 体液・組織の検査 3) 生体検査 4) 洗浄		講義		遠藤
13		診察・検査 2 (1h)	検査の介助・検体の取り扱い		演習		
14		採血法と注射法の実際 1	静脈血採血		演習		
15		採血法と注射法の実際 2	簡易血糖検査 輸液ポンプの取り扱い		演習		
16	試験 (1h)						
評価方法			筆記試験				
参考文献と資料			テキスト： 回数 1～2 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 5～15 基礎看護技術 医学書院 回数 3～4 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 基礎看護技術 医学書院 今日の治療薬 解説と便覧 南江堂				
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	臨床看護総論	担当教員	専任教員 加治屋恵美子 *	単位数	1	時期	1年次 12月～
				時間数	30		
目的：対象の状況に応じて、学んだ知識・技術（共通基本技術・生活援助技術）を統合し安全・安楽な看護を提供できる能力を養う。							
目標：1）経過別看護の考え方が理解できる。							
2）主要症状を基に既習知識を関連付け、活用する方法を身に付ける。							
3）事例に合わせて必要な援助を選択し、安全・安楽に基づいて実施できる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	身体の機能に着目した看護	身体機能の変化に合わせた看護			講義	加治屋	
2	病期の経過に応じた患者の看護 1	急性期にある患者の看護 1) 急性期の概念 2) 患者の特徴 3) 急性期にある患者の看護			講義		
3	病期の経過に応じた患者の看護 2	回復期にある患者の看護 1) 回復期の概念 2) 患者の特徴 3) 回復期にある患者の看護			講義		
4	病期の経過に応じた患者の看護 3	慢性期にある患者の看護 1) 慢性期の特徴および「病みの軌跡」 2) 慢性期にある患者の特徴と看護における教育的意義 3) 慢性期にある患者の看護			講義		
5	病期の経過に応じた患者の看護 4	終末期にある患者の看護 1) 終末期の概念 2) 終末期にある患者のトータルペイン 3) 終末期にある家族のトータルペイン 4) グリーフケア			講義		
6	治療・処置を受けている患者の看護	安静療法を必要とする患者の看護 1) 安静療法の効果 2) 安静療法と二次的障害			講義		
7	主要症状を示す患者の看護 1	ショックの種類とメカニズム			講義		
8	主要症状を示す患者の看護 2	関連図の作成と演習 ショックを示す患者の観察			講義		
9	主要症状を示す患者の看護 3	ショックを示す患者の看護			講義		
10	事例演習 1	事例を通して情報を分析し健康状態を捉える。 必要な看護を導き、対象・症状・経過に応じた方法を選択し援助計画を立案する。			講義		
11	事例演習 2	事例を通して情報を分析し健康状態を捉える。 必要な看護を導き、対象・症状・経過に応じた方法を選択し援助計画を立案する。			講義		
12	事例演習 3	グループ演習			講義		
13	事例演習 4	グループ演習			講義		
14	事例演習 5	各検討事例 発表会			講義		
15	まとめと試験						
評価方法		記録物：50点 筆記試験：50点					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～15 ナーシンググラフィカ 臨床看護総論 メディカ出版 事例に応じて必要だと思われる教科書					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	成人看護学総論	担当 教員	専任教員 加治屋恵美子 * 外部講師 木村 ゆかり * 日浅 友裕 *	単位数 時間数	1 30	時期	1 年次 7 月～
目的：ライフサイクルにおける成人期の位置づけを明確にし、そのステージの成人がおかれている生活環境を踏まえて成人看護の役割を理解する。							
目標： 1) 成人期の対象を理解する。 2) 成人期の発達段階と特徴について理解する。 3) 成人のもつ健康問題の多様性について理解する。 4) 成人保健の動向と保健・医療対策を学び、保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	成人看護学の概要	成人看護学の概念と構造 成人各期の発達課題			講義	加治屋	
2	成人と健康	対象の理解 成人期の発達課題の特徴 対象の生活 働いて生活を営むこと			講義		
3	生活と健康	大人の生活からとらえる健康 大人の健康の状況			講義		
4	生活ストレスと看護	健康バランスに影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防			講義		
5	生活と健康をまもりはぐくむシステム	健康増進・生活習慣病対策（健康日本21等） 保健・医療・福祉システムの連携			講義	木村	
6	健康生活をはぐくむ看護	健康生活をはぐくむ看護 ヘルスプロモーション 健康をはぐくむ看護の場と活動			講義		
7	看護アプローチの基本	生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 大人の健康行動を促進する看護アプローチ 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 看護実践における倫理			講義	日浅	
8	セルフケア再調整を促す看護 1	慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病 セルフケア			講義		
9	セルフケア再調整を促す看護 2	慢性病との共存の過程を支える看護 慢性病患者への看護技術			講義		
10	セルフケア再調整を促す看護 3	退院をめぐる医療制度の動向 患者・家族にとっての退院の意味 退院調整活動			講義		
11	セルフケア再獲得を促す看護 1	生活行動レベルとセルフケアアセスメント セルフケア再獲得を促すための人的・法的支援			講義		
12	セルフケア再獲得を促す看護 2	障害を持つ人とリハビリテーション 障害を持ちながら生活する人を支援する看護			講義		
13	健康危機状況におけるセルフケア支援 1	健康の急激な破綻 急激な健康破綻をきたした人の看護			講義		
14	健康危機状況におけるセルフケア支援 2	終末期患者の全人的な痛みの理解と援助 終末期患者の家族への援助 人生最後のときを支える看護			講義		
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学（1）成人看護学総論 医学書院 看護のための人間発達学 医学書院 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	成人看護学各論Ⅰ	担当 教員	専任教員 加治屋恵美子＊ 横田千代美＊ 外部講師 山村由起子＊ 石橋 津喜子＊	単位数 時間数	1 30	時期	1 年次 1 1 月～
目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフマネジメントを必要とする人の看護の方法を理解する。 目標：1) 呼吸機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 2) 循環機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	成人看護学各論の学び方	機能障害別の看護と疾患別看護			講義	加治屋	
2	呼吸機能障害 1	呼吸機能とその障害			講義	横田	
3	呼吸機能障害 2	換気障害・拡散障害・肺循環障害			講義		
4	呼吸機能障害 3	呼吸困難の要因と関連要因・アセスメント・看護			講義		
5	呼吸機能障害 4	咳嗽・痰（血痰・喀血）の成因とメカニズム・アセスメント・看護			講義		
6	呼吸器疾患を持つ患者の看護 1	呼吸機能障害の治療に伴う看護 1（胸腔鏡下手術・肺切除術・気管支視鏡検査）肺がん			講義	山村	
7	呼吸器疾患を持つ患者の看護 2	呼吸機能障害の治療に伴う看護 2（胸腔ドレナージ・呼吸リハビリテーション）肺炎 結核 気胸			講義		
8	呼吸器疾患を持つ患者の看護 3	呼吸機能障害の治療に伴う看護 3（人工呼吸療法・在宅酸素療法）慢性閉塞性肺疾患（COPD）呼吸不全			講義		
9	循環機能障害 1	循環機能とその役割・障害			講義	横田	
10	循環機能障害 2	胸痛の要因・アセスメント・看護 心不全の要因・アセスメント・看護			講義		
11	循環機能障害 3	不整脈の要因・アセスメント・看護 高血圧・動脈硬化の要因・アセスメント・看護			講義		
12	循環器疾患を持つ患者の看護 1	心臓カテーテル検査 ペースメーカー治療 心臓リハビリテーション			講義	石橋	
13	循環器疾患を持つ患者の看護 2	虚血性心疾患 心不全			講義		
14	循環器疾患を持つ患者の看護 3	弁疾患 不整脈			講義		
15	まとめ・試験					加治屋	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 回数1 （成人看護学各論の学び方）はテキスト不要 回数2～14 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護① 呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版					
事前準備や受講要件							

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業 科目	成人看護学各論Ⅱ	担当 教員	専任教員 池戸 梨香* 外部講師 高橋 慶彦* 川口 晶代* 西尾 涼一* 渡辺 智恵* 山田 成美*	単位数 時間数	1 30	時期	2 年次 4 月～
目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフマネジメントを必要とする人の看護の方法を理解する。 目標：1) 内部環境調整機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 2) 血液造血器機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 3) 身体防御機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 4) 性・生殖機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	内部環境調整機能障害 1	体液調節機能とその障害 腎不全の要因			講義	高橋	
2	内部環境調整機能障害 2	内分泌機能とその役割 機能障害の要因			講義		
3	内部環境調整機能障害のある患者の看護 1	腎不全			講義	西尾	
4	内部環境調整機能障害のある患者の看護 2	透析療法			講義	川口	
5	血液造血機能障害 1	造血機能とその役割・障害 貧血のアセスメント・看護			講義	高橋	
6	血液造血機能障害 2	感染のメカニズム 易感染のアセスメント・看護 止血のメカニズム 出血傾向のアセスメント・看護 造血器腫瘍のアセスメント・看護			講義		
7	身体防御機能障害 1	生体防御機能とその障害 アセスメント・看護			講義		
8	身体防御機能障害 2	免疫のメカニズム・免疫障害の要因・ アセスメント・看護			講義		
9	血液造血器疾患を持つ患者の看護 1	検査 化学療法・輸血療法 造血幹細胞移植			講義	渡辺	
10	血液造血器疾患を持つ患者の看護 2	白血病 悪性リンパ腫			講義		
11	性・生殖機能障害 1	性・生殖機能とその障害・看護			講義	池戸	
12	性・生殖機能障害 2	女性不妊・男性不妊の原因と看護及び検査			講義	山田	
13	女性生殖器疾患を持つ患者の看護 1	子宮鏡検査 ホルモン療法 診療介助 手術療法（開腹・経膈・腹腔鏡下）			講義	池戸	
14	女性生殖器疾患を持つ患者の看護 2	子宮がん 卵巣腫瘍			講義	山田	
15	まとめ・試験					池戸	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 回数 1～4 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑥ 7～8 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 11～14 回数 5～6 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護③ 9～10 造血機能障害/免疫機能障害					
事前準備や受講要件							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	成人看護学各論Ⅲ	担当 教員	専任教員 横田千代美* 外部講師 高橋 慶彦* 江崎 寿昌* 可知 達浩* 為保 翔太*	単位数 時間数	1 30	時期	2 年次 5 月～
目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフケア再獲得を必要とする人の看護の方法を理解する。 目標：1) 運動機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 2) 脳・神経障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 3) リハビリテーションの意義について学び、その実際を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	脳・神経機能障害 1	脳・神経機能とその障害			講義	高橋	
2	脳・神経機能障害 2	頭蓋内圧亢進症状 意識障害の要因・アセスメント・看護			講義		
3	脳・神経機能障害 3	運動麻痺 運動失調の要因・アセスメント・看護 言語障害の要因・アセスメント・看護			講義		
4	脳神経疾患を持つ患者の看護 1	髄液検査 脳血管造影 開頭手術 血管バイパス術 低体温療法中の援助			講義	江崎	
5	脳神経疾患を持つ患者の看護 2	脳血管障害 脳腫瘍 パーキンソン病			講義		
6	運動機能障害 1	骨格系の運動機能とその障害 (大腿骨頸部骨折)			講義	横田	
7	運動機能障害 2	脊椎の運動機能とその障害 (椎間板ヘルニア)			講義		
8	運動機能障害 3	関節の運動機能とその障害 (変形性関節症)			講義		
9	運動器疾患を持つ患者の看護 1	脊椎造影検査 関節造影検査 牽引療法 ギプス固定 副子固定			講義	可知	
10	運動器疾患を持つ患者の看護 2	大腿骨頸部骨折 脊髄損傷			講義		
11	看護とリハビリテーションの実際 1	リハビリテーション看護概論 運動器系の障害とリハビリテーション看護			講義	為保	
12	看護とリハビリテーションの実際 2	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 1			講義		
13	看護とリハビリテーションの実際 3	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 2 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション看護			講義		
14	看護とリハビリテーションの実際 4	介助方法の実際 トランスファー			演習		
15	まとめ・試験					横田	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～5 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑤ 運動機能障害 メディカ出版 回数6～10 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護④ 脳・神経機能障害/感覚機能障害 メディカ出版 回数11～14 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業		担当	外部講師 高橋 慶彦* 山田 千恵* 澤田 真由子* 矢田 匡城* 香西 由加* 土屋 あすか* 櫻井 由美子*	単位数	1		2 年次
科目	成人看護学各論Ⅳ	教員		時間数	30	時期	5 月～
目的：機能障害発症の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、セルフケア再獲得を必要とする人の看護の方法を理解する。 目標：1) 栄養代謝機能障害の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 2) 消化吸収機能障害の成り行きと症状の成因・関連要因を学び、看護の方法を理解する。 3) 放射線検査・治療の特徴を学び、放射線療法法の副作用症状への看護の役割を理解できる。 4) 化学療法法の概要を知り、看護の役割を理解できる。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	栄養代謝機能障害 1	栄養代謝機能とその役割 高血糖・低血糖のメカニズム 糖尿病の要因・アセスメント・看護			講義	高橋	
2	栄養代謝機能障害 2	高脂血症の要因・アセスメント・看護 肝不全の要因・アセスメント・看護			講義		
3	消化・吸収機能障害 1	消化・吸収機能とその役割 食欲不振・嘔吐の要因・アセスメント・看護			講義		
4	消化・吸収機能障害 2	嚥下機能とその役割 嚥下機能障害の要因・アセスメント・看護			講義		
5	消化機能障害・栄養代謝機能障害のある患者の看護 1	内視鏡検査 放射線検査			講義	山田	
6	消化機能障害・栄養代謝機能障害のある患者の看護 2	胃・十二指腸疾患 肝硬変 脾炎 潰瘍性大腸炎・クローン病 (生活指導)			講義		
7	皮膚・排泄ケアの実際 1	褥瘡の要因と予防 褥瘡の治療と看護			講義	澤田	
8	皮膚・排泄ケアの実際 2	ストーマケア			講義・演習		
9	放射線検査の特徴	IVR MRI 核医学診断 超音波診断			講義	矢田	
10	放射線療法と健康管理	放射線療法における健康障害と健康管理			講義	香西	
11	放射線療法を受ける対象への看護 1	放射線療法における看護の役割			講義	土屋	
12	放射線療法を受ける対象への看護 2	放射線療法における看護の実際			講義		
13	化学療法を受ける対象への看護 1	化学療法とは 化学療法における看護の役割			講義	櫻井	
14	化学療法を受ける対象への看護 2	化学療法における看護の実際			講義		
15	まとめ・試験					高橋	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～4 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護② 栄養代謝機能障害 メディカ出版 回数5～6 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 (5) 消化器 医学書院 回数7～8 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 (12) 皮膚 医学書院 回数9～10 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 回数11～12 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 回数13～14 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院					
事前準備や受講要件等							

授業 科目	成人看護学各論Ⅴ	担当 教員	外部講師 小島 智子* 専任教員 加治屋恵美子*	単位数 時間数	1 30	時期	2 年次 6 月～
目的：健康の保持・増進の重要性を理解し、健康上の諸問題を捉え、セルフマネジメントを支援する看護の実際を、問題解決の方法に基づき援助ができる能力を養う。							
目標：慢性期の事例を通して健康障害を持つ成人の看護を理解し、成人看護に必要な知識・技術を統合する。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	糖尿病看護の基本	糖尿病とは 糖尿病の基礎知識・疾患の理解・看護			講義	小島	
2	看護過程の展開 1	看護過程の流れ データベースの記載			講義	加治屋	
3	看護過程の展開 2	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈 1 事例の病態理解			講義		
4	看護過程の展開 3	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈 2			講義		
5	看護過程の展開 4	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈 3			講義		
6	看護過程の展開 5	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈 4			講義		
7	看護過程の展開 6	問題の明確化			講義		
8	看護過程の展開 7	統合関連図			講義		
9	看護過程の展開 8	指導技術とは			講義		
10	看護過程の展開 9	指導計画書立案 1			講義		
11	看護過程の展開 10	指導計画書立案 2			講義		
12	看護過程の展開 11	指導計画書立案 3			講義		
13	看護過程の展開 12	援助の実際 1			演習		
14	看護過程の展開 13	援助の実際 2			演習		
15	看護過程の展開 14	援助後の評価			講義		
評価方法		記録物（看護過程）による評価					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～15 系統看護学講座 専門分野 成人看護学講座（6） 内分泌・代謝 医学書院 回数9 新体系 看護学全書 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 参考図書 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 今日の治療薬 南江堂 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーヴェルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ヌーヴェルヒロカワ					
事前準備や受講要件等		自己学習をして授業に臨む。常に事前学習ファイルを用意して授業に臨む。					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	成人看護学各論Ⅵ	担当 教員	外部講師 田口 知枝* 若尾 留美* 幡鉾 梨絵* 専任教員 加治屋恵美子*	単位数 時間数	1 30	時期	2 年次 10 月～
目的：周手術期看護・クリティカルケアを知り、臨床判断の基礎的能力を養う。 目標：1) 周手術期の特徴を知り、看護の方法を理解する。 2) 救急看護・集中治療を受ける患者の看護を理解する。 3) 臨床判断能力の概要を知り、必要な判断ができる。							
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	手術を受ける患者の看護 1	術前・術後の看護 胃切除 人工肛門造設術 胆嚢摘出術			講義	田口	
2	手術を受ける患者の看護 2	乳房手術 心臓手術			講義		
3	手術中の患者の看護	手術中の看護の要点 手術室における看護の展開			講義	若尾	
4	救急看護の特徴	救急患者の特徴 救急医療体制 救急看護と法的・倫理的側面 感染管理			講義	幡鉾	
5	救急時の処置を受けている患者の看護	輸液ライン挿入中 気管内チューブ挿入中 気管切開・酸素療法・ME 機器装着中			講義		
6	重症集中治療を受ける患者の看護	外傷 熱傷 中毒			講義		
7	臨床判断能力の基礎 1	臨床判断モデル			講義	加治屋	
8	臨床判断能力の基礎 2	臨床判断能力の育成と実施			講義		
9	臨床判断能力の基礎 3	臨床判断の実施と省察			講義		
10	臨床判断能力の活用 1	臨床判断を求められる場面 1			演習		
11	臨床判断能力の活用 2	臨床判断を求められる場面 2			演習		
12	臨床判断能力の活用 3	実施後の省察			演習		
13	臨床判断能力の活用 4	臨床判断を求められる場面 3			演習		
14	臨床判断能力の活用 5	臨床判断を求められる場面 4			演習		
15	臨床判断能力の活用 6 (1h)	実施後の省察・まとめ			演習		
16	試験 (1h)						
評価方法		筆記試験40点 記録物60点					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～3 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 回数4～6 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 回数7～14 配布資料					
事前準備や受講要件等		自己学習をして授業に臨む。					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	老年看護学概論	担当 教員	専任教員 旗屋 麻紀＊ 外部講師 三輪 陽子＊	単位数	1	時期	1年次 11月～
				時間数	15		
目的: 老年期の特徴と高齢社会の動向を知り、老年看護の役割を理解する。							
目標: 1) 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解する。							
2) 加齢を伴う高齢者の健康状態を理解する。							
3) 社会構造の変化、高齢化に伴う医療・保健・福祉対策を理解する。							
4) 老年看護における倫理的課題を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	老年看護学の概要	老年看護の意義 老年看護の目指すもの 加齢と老化 老年期の理解			講義	旗屋	
2	加齢に伴う各種機能 の変化1	加齢と身体的側面・精神的側面・社会的側面の変化1			講義		
3	加齢に伴う各種機能 の変化2	加齢と身体的側面・精神的側面・社会的側面の変化2			講義		
4	加齢に伴う各種機能 の変化3	高齢者体験			演習		
5	高齢社会の動向1	人口の高齢化現象 健康指標・健康状態			講義	三輪	
6	高齢社会の動向2	わが国の高齢者医療・保健・福祉対策			講義		
7	老年看護における 倫理的課題	高齢者の尊厳と権利擁護 看護職の倫理的責任			講義		
8	試験(1h)					旗屋	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト: ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 国民衛生の動向					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	老年看護学各論Ⅰ	担当 教員	専任教員 旗屋 麻紀＊ 外部講師 松原 亜希子＊ 三輪 陽子＊ 二村 洋代＊	単位数	1	時期	1年次
				時間数	30		12月～
目的: 加齢を伴う高齢者及び健康障害のある高齢者に対する看護ができる能力を養う。							
目標: 1)日常生活が加齢によってどのような影響を受けているか理解する。							
2)加齢に伴う各種機能の変化に対応した日常生活の援助技術の方法を理解する。							
3)健康障害のある高齢者に対する看護の方法を理解する。							
回数	学習課題	内 容				方 法	担当教員
1	日常生活の援助1	高齢者の健康とは				講義	三輪
2	日常生活の援助2	日常生活動作能力のアセスメントと援助1				講義	
3	日常生活の援助3	日常生活動作能力のアセスメントと援助2				講義	
4	日常生活の援助4	生活機能障害の程度と残存機能の評価				講義	
5	健康障害のある高齢者の看護1	嚥下障害・失語症・構音障害に対するリハビリテーション				講義	松原
6	健康障害のある高齢者の看護2	嚥下機能障害と要因・アセスメント・看護				講義	二村
7	健康障害のある高齢者の看護3	日常生活拡大に向けた看護				講義	旗屋
8	健康障害のある高齢者の看護4	食生活と摂食・嚥下障害に対する看護				講義	
9	健康障害のある高齢者の看護5	排泄障害に対する看護				講義	
10	健康障害のある高齢者の看護6	転倒・転落 熱傷 誤嚥等の予防と急変・救急時の対応				講義	
11	健康障害のある高齢者の看護7	老年期に特徴的な疾患と看護1				講義	
12	健康障害のある高齢者の看護8	老年期に特徴的な疾患と看護2				講義	
13	健康障害のある高齢者の看護9	老年期に特徴的な疾患と看護3				講義	
14	健康的で尊厳ある暮らしに向けての援助	生活リズムを整える援助と活動				演習	
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト: ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 回数5 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	老年看護学各論Ⅱ	担当 教員	外部講師 曾川 武秀* 森山 斉美* 奥村 深雪* 三輪 陽子* 専任教員 旗屋 麻紀*	単位数 時間数	2 45	時期	2年次 4月～
目的: 治療を受ける高齢者の看護が理解でき、健康レベルに応じた援助が習得できる。							
目標: 1)福祉施設・医療施設における看護を理解する。							
2)治療、検査時の看護を理解する。							
3)高齢者の終末期ケアの特徴を理解する。							
4)事例をととして健康障害のある老年看護に必要な知識・技術の統合ができる。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	福祉施設における看護1	高齢者福祉 高齢者とのコミュニケーション			講義	曾川	
2	福祉施設における看護2	家族のエンパワーメント 各種在宅サービス			講義		
3	認知症の高齢者と家族への援助1	認知症の種類と評価方法・症状と対応の基本			講義		
4	認知症の高齢者と家族への援助2	認知症高齢者へのかかわり方の基本			講義	奥村	
5	認知症の高齢者と家族への援助3	保健福祉施設における看護の実際			講義	森山	
6	認知症の高齢者と家族への援助4	認知症高齢者とのコミュニケーション			講義	旗屋	
7	医療施設における看護	外来診療時・入院・退院時の看護			講義	三輪	
8	薬物療法を受ける高齢者の看護1	加齢と薬物動態 服薬過誤の予防と看護			講義		
9	検査を受ける高齢者の看護	高齢者の特徴と検査前後の看護			講義		
10	手術を受ける高齢者の看護	高齢者の特徴と手術前後の看護			講義		
11	終末期の高齢者の看護	高齢者の終末期ケアの特徴 見取りの看護			講義		
12	看護過程の展開1	看護過程展開の流れ 事例紹介			講義	旗屋	
13	看護過程の展開2	データベース及び検査データの解釈			講義		
14	看護過程の展開3	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈1			講義		
15	看護過程の展開4	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈2			講義		
16	看護過程の展開5	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈3			講義		
17	看護過程の展開6	全体像の把握			講義		
18	看護過程の展開7	問題点の抽出・関連図			講義		
19	看護過程の展開8	看護計画の立案			講義		
20	看護過程の展開9	日常生活援助技術1			演習		
21	看護過程の展開10	日常生活援助技術2 看護援助の評価			演習		
22	看護過程の展開11	看護過程のまとめ			講義		
23	試験(1h)						
評価方法		回数6～12 筆記試験 40点 回数13～22 記録物(看護過程)による評価 60点					
参考文献と資料		テキスト: ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践					
事前準備や受講要件等		看護過程:自己学習をして授業に臨む。					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	小児看護学各論Ⅰ	担当 教員	外部講師 柘植 智史* 石田 敦士* 向井 愛子* 鈴木 敦詞* 谷口 弘晃* 中野 正大*	単位数 時間数	1 30	時期	2年次 9月～
目的: 小児の発達段階における小児の疾患・健康障害の特徴を理解する。 目標: 1) 小児に特徴的な疾患の病態を理解する。 2) 小児に特徴的な疾患の検査・治療・処置を理解する。 3) 虐待を受けた子どもの特徴とケアを理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	先天異常	染色体異常・マス・スクリーニング			講義	柘植	
2	新生児	新生児疾患			講義		
3	代謝性疾患	先天性代謝異常症・糖尿病			講義	石田	
4	内分泌疾患	下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患 ・副腎疾患・性腺の異常			講義		
5	アレルギー性疾患	気管支喘息・食物アレルギー				向井	
6	感染症①	ウィルス感染症			講義	石田	
7	感染症②	細菌感染症					
8	呼吸器疾患	肺炎・気管支炎			講義	鈴木	
9	循環器疾患	先天性心疾患・後天性心疾患・川崎病			講義	柘植	
10	消化器疾患	唇裂・口蓋裂・食道閉鎖症・幽門狭窄症・鎖肛 胆道閉鎖症・腸重積・急性乳幼児下痢症			講義	谷口	
11	血液・造血器 悪性新生物	再生不良性貧血・血友病 白血病・脳腫瘍			講義		
12	腎泌尿器疾患	ネフローゼ症候群			講義		
13	神経疾患	脳性麻痺			講義	鈴木	
14	精神疾患 不登校	発達障害・神経症的障害・行動障害不登校 ・不登校の子どもをもつ親の理解			講義	中野	
15	虐待	虐待の定義・分類・発生要因・虐待を受けた子どもへのケア			講義		
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト: 回数:1～11 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院 回数12～15 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	母性看護学総論	担当 教員	専任教員 池戸 梨香* 遠藤 彩加* 外部講師 山田 成美 *	単位数	1	時期	2 年次 4 月～
				時間数	30		
目的: 母性看護の意義と役割及び対象を理解し、女性のライフサイクル各期における看護を理解する。							
目標: 1) 母性看護の概念を理解し、母性・父性について理解する。 2) 母子関係と家族発達について理解できる。 3) 女性のライフサイクルとその健康問題と発達課題について理解する。 4) 女性の生涯にわたる健康支援（ヘルスプロモーション）について理解する。 5) 母性看護の対象を取り巻く社会の動向と法律・施策について理解する。 6) 母子保健の現状と支援について理解する。 7) 女性の健康を支援するための考え方と看護支援の方法(リプロダクティブヘルス・ケア)を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法		担当教員
1	母性看護学の意義と役割	母性看護学の学習内容 母性看護学とは・母性看護の在り方			講義		池戸
2	母子関係と家族発達	愛着・母子相互作用 家族機能 家族の発達課題			講義		
3	女性・家族の ライフサイクル	女性のライフサイクル 現代女性のライフサイクル			講義		
4	セクシュアリティ	人間の性 セクシュアリティの発達と課題 母性の発達・成熟・継承 リプロダクティブヘルツ/ライツ ジェンダー			講義		
5	女性の生涯にわたる 健康教育	ヘルスプロモーション 健康教育			講義		
6	母性看護の歴史的変遷 と現状	母性看護の変遷と課題 母子保健統計から見た動向			講義		
7	母性看護の対象を取り 巻く社会	母性看護に関する組織と法律			講義		
8	母性看護における倫理	生命倫理と看護倫理 看護における倫理的意思決定			講義		
9	リプロダクティブ ヘルス・ケア	在日外国人の母子保健 家族計画・性感染症・性暴力・児童虐待			講義		
10	ライフステージ各期 における看護	母性看護における技術 ライフサイクルにおける健康と看護			講義		遠藤
11	ライフステージ各期 における看護 (思春期)	思春期の健康と看護 月経・妊娠・性教育			講義		
12	ライフステージ各期 における看護 (性成熟期)	性成熟期の健康と看護 月経困難症・女性特有の癌			講義		山田
13	ライフステージ各期 における看護 (更年期)	更年期の健康と看護 更年期症状・尿失禁			講義		
14	ライフステージ各期 における看護 (老年期)	老年期の健康と看護 子宮脱・骨粗鬆症			講義		遠藤
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1) 母性看護学概論 医学書院					
事前準備や受講要件等		母子手帳を準備すること					

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	母性看護学各論Ⅰ	担当 教員	外部講師 松川 哲* 中村 浩美* 杉山みね子* 山田 成美* 専任教員 池戸 梨香*	単位数 時間数	2 45	時期	2年次 9月～
目的：周産期にある妊娠・分娩・産褥期の一連の過程から新生児に至るまでの正常な経過と看護について理解する。							
目標：1) 妊娠期の経過と異常、看護について理解する。 2) 分娩期の経過と異常、看護について理解する。 3) 産褥期の経過と異常、看護について理解する。 4) 新生児の経過と異常、看護について理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	妊娠期の経過 1	妊娠の生理			講義	松川	
2	妊娠期の経過 2	胎児の発育とその生理			講義		
3	妊娠期の経過 3	正常経過と健康診査			講義		
4	分娩期の経過 1	分娩の要素 分娩の経過			講義		
5	分娩期の経過 2	胎児に及ぼす影響 産婦と胎児のアセスメント			講義		
6	産褥期の経過 新生児期の経過	産褥経過とその診断 新生児の生理 新生児の健康状態のアセスメント			講義		
7	妊娠期の異常 1	異常妊娠 1			講義	中村	
8	妊娠期の異常 2	異常妊娠 2			講義		
9	分娩期の異常 産褥期の異常	異常分娩 産褥の異常と新生児の異常			講義		
10	不妊治療 着床前～出生前診断	原因・検査・治療 診断方法・治療			講義		
11	妊娠期の看護 1	身体的・心理・社会的特性			講義	杉山	
12	妊娠期の看護 2	妊婦の健康診査と胎児の発育			講義		
13	妊娠期の看護 3	妊婦の診察とその介助・生活指導			講義		
14	分娩期の看護 1	身体的・心理・社会的特性			講義		
15	分娩期の看護 2	産婦の看護			講義		
16	産褥期の看護 1	身体的・心理・社会的特性			講義		
17	産褥期の看護 2	産褥経過のアセスメント(退行性変化・進行性変化)			講義	池戸	
18	産褥期の看護 3	褥婦の看護とセルフケアへの援助			講義		
19	新生児の看護	新生児期の特徴 新生児の健康状態のアセスメントと看護			講義		
20	異常の看護 1	ハイリスク妊婦の看護			講義	山田	
21	異常の看護 2	異常のある産婦の看護、分娩時異常出血のある産婦の看護 低出生体重児の看護			講義		
22	異常の看護 3	異常のある褥婦の看護 異常分娩時(帝王切開術)の産婦の看護			講義		
23	試験(1h)					専任教員	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～10 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院 回数11～22 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ 多治見病院母性学級テキスト「あゆみ」					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	母性看護学各論Ⅱ	担当 教員	専任教員 池戸 梨香*	単位数	1	時期	2年次 1月～
				時間数	30		
目的：周産期にある妊娠・分娩・産褥期の一連の過程から新生児に至るまでの異常と看護を理解する。 目標：1) 事例の展開より、褥婦と新生児の健康状態をアセスメントし、セルフケアへの援助を理解する。 2) 妊娠期から新生児期の観察技術を習得する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	看護過程の展開 1	Wellnessの考え方 事例紹介			講義	池戸	
2	看護過程の展開 2	産褥期のアセスメント(褥婦)			講義		
3	看護過程の展開 3	新生児期のアセスメント(新生児)			講義		
4	看護過程の展開 4	看護目標・援助項目の抽出と援助方法			講義		
5	看護過程の展開 5	褥婦の援助計画 1項目			講義		
6	看護過程の展開 6	子宮底測定			演習		
7	看護過程の展開 7	レオポルド触診法・胎児心拍数測定					
8	看護過程の展開 8	母子の関係 相互作用			講義		
9	看護過程の展開 9	新生児の援助計画 1項目			講義		
10	看護過程の展開10	乳房マッサージ法・授乳姿勢			演習		
11	看護過程の展開11	新生児の観察と生理的反射					
12	看護過程の展開12	新生児の観察 沐浴			演習		
13	看護過程の展開13						
14	看護過程の展開14	帝王切開術後の特徴			講義		
15	まとめ						
評価方法		記録物（看護過程）による評価					
参考文献と資料		テキスト： 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院 多治見病院母親学級テキスト「あゆみ」 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ					
事前準備や受講要件等		看護過程：アセスメントに必要な自己学習をして授業に臨む。					

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業 科目	災害看護・国際看護	担当 教員	外部講師 森田 理* 藤垣 恵*	単位数	1	時期	3年次 10月～
				時間数	15		
目的：災害看護における基礎的能力を身に付けるとともに、国際看護の必要性が理解できる。							
目標：1) 災害の概念、災害時の健康障害について理解する。							
2) 災害急性期の看護活動の実際を理解する。							
3) トリアージの基本的知識と方法について理解する。							
4) 国際看護の現状や動向、看護活動の実際を知る。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	災害・災害看護に関する知識	災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた活動現場 被災者特性に応じた展開 災害と心のケア			講義	森田	
2	看護の役割と看護活動	関係機関、他職種との連携 在宅・地域における連携 災害ボランティア 避難所における看護ケア			講義		
3	災害時に必要な技術の実際1	救急技術(応急処置、循環管理、外傷治療、搬送)の実際 災害時に多い傷病名と応急処置			講義		
4	災害時に必要な技術の実際2	心肺蘇生の実実際			演習		
5	災害時に必要な技術の実際3	トリアージの実実際			演習		
6	国際看護1	看護とグローバル化 国際救援活動の基本理念			講義	藤垣	
7	国際看護2	国際救援活動の実実際とマネジメント			講義		
8	試験(1h)					森田	
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3) 災害看護・国際看護学 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	緩和ケア	担当 教員	外部講師 伊藤 浩明* 山中 洋美* 渡邊 理江*	単位数	1	時期	3年次 10月～
				時間数	15		
目的：緩和ケアを理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。							
目標：1）生と死を考える。							
2）緩和ケアの目的・意義を学ぶ。							
3）緩和ケアとしての身体的・精神的・社会的・スピリチュアル・家族ケアの実際を理解する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	緩和ケアとは	緩和ケアとは何か 緩和ケアの歴史・現状 疼痛緩和 チームアプローチ			講義	伊藤	
2	死を考える	死を考える 死に直面した人間の現実、死の看取りと医療者			講義	山中	
3	緩和ケアの進め方 身体的ケア	癌性疼痛、全身倦怠感、呼吸困難等			講義		
4	精神的ケア	不安・恐怖、怒り、抑うつ、せん妄等			講義		
5	社会的ケア・家族ケア	信頼関係の確立と問題の認知 グリーフケアの方法			講義		
6	緩和ケアの実際 1	スピリチュアルケア			講義	渡邊	
7	緩和ケアの実際 2	スピリチュアルケア			講義		
8	試験（1h）					山中	
評価方法		回数2～5 筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 新体系看護学全書 別巻 生と死の看護論 メヂカルフレンド社					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員